

集中治療部 (ICU)

Intensive Care Unit

集中治療部長
福田 和彦



重症症例治療の砦

集中治療部は、呼吸、循環、代謝等、原疾患を問わず、急性臓器不全に陥ったあるいは陥る恐れのある患者さんに対し集中的な治療および看護を行う部門であり、当院では1986年に開設された。現在は中央診療棟4階に10床を有し、中央手術部とは内部通路で連結している。全病床に集中治療加算が適応されており、日本集中治療医学会による集中治療専門医研修施設の認定を受けている。本集中治療部は開設以来、京大病院の高度外科手術の術後管理ステーションとして、また多診療科にわたる高度医療の連携センターとしての機能を担ってきた。専従の医師と看護スタッフを配し、高度な患者監視システムを用いて24時間集中監視体制で治療にあたっている。

代表的診療対象疾患

I. 大手術の術後管理

心臓、食道、肝臓、膵臓などの大手術
肺および肝臓移植術

脳神経外科、整形外科、耳鼻咽喉科、小児外科の高度手術

II. 急性臓器不全の集中治療

呼吸不全、ショック、腎不全、重症感染症、劇症肝炎、重症膵炎、多臓器不全など

業務内容の特徴と実績

部門間連携により集学的治療を実践

集中治療部の専従スタッフは副部長(講師)1名、助教1名からなり、当直にはさらに麻酔科在籍の集中治療部出向経験者4、5名が加わっている。麻酔科との連携により、一貫した術中術後管理が可能となっている。看護体制は師長1名、副師長3名、看護師36名、看護助手1名が配置され、勤務時間帯を問わず高レベルの看護が維持されている。集中治療部の運営には、多くの部門が関与している。MEセンターによる医療機器の点検保守、薬剤部による薬剤管理は安全性向上に寄与している。診療においても呼吸管理睡眠制御学講座による非侵襲的陽圧換気法の施行や、ICTによる院内感染対策、感染症治療など多診療科による集学的治療が実践されている。安全管理室を交えたミーティングを定期的に関き、リスクマネジメントにも努めている。

院内の救急処置にも対応

診療実績としては、年間入室患者数は約680人で、その内人工呼吸管理症例は480例程度。血漿交換、エンドトキシン吸着を含む血液浄化施行数は約120件、補助循環施行件数は約20件となっている。集中治療部医師の守備範囲は集中治療部内にとどまらず救急外来での救急部医師との治療の協力、院内からの気管挿管等救急処置の依頼にも積極的に対応している。



高度先進医療の取り組み

肝および肺移植術に貢献

集中治療部が関与する高度先進医療は、肝および肺移植術である。多くの診療科が連携して集中治療部で術後管理が行われている。2010年7月の改正臓器移植法の施行後、脳死移植の件数が著明に増加している。脳死移植は緊急手術であり、複数の症例が同時に行われる場合(左

右の肺が別々のレシピエントへ、肝臓と肺が同時になど)があり、病床管理上の負担が大きい。患者の高齢化、疾患の複雑化に伴い集中治療の需要はますます増加しており、現有の10床から16床へ増床が計画されている。